

甲山古墳 (熊谷市)

かぶとやま

前方の木々のところが、甲山古墳/墳丘には青山神社が鎮座している/南東側から見たところ



これは青山神社の一の鳥居/地名「青山」、古墳名「甲山」



前方に二の鳥居と青山神社社殿が見える/その上部に見える赤い屋根は墳頂に鎮座する八幡神社本殿の覆屋/右手に説明板が立っている



村社としての日吉神社が、青山神社と改称していた八幡神社と合併し、日吉神社を青山神社と称するようになり、後に八幡神社本殿の東下に日吉神社の拝殿が移築されて、現在の青山神社となったらしい/近くには熊谷市指定文化財の根岸家長屋門があるようだ

甲山古墳



青山地内にある甲山古墳は、全長 90m、高さ 11.25m、二段築成の大型の円墳と考えられています。「新編武蔵風土記稿」によれば、埴輪・須恵器・玉類・鏡・太刀等が出土したものの再び埋め戻されたと記されています。

この甲山古墳の墳丘の規模は、県内ではさきたま古墳群の丸墓山古墳に次ぐ県内第二位の規模を持ち、国内でも有数の円墳です。古墳築造の年代は6世紀前半と考えられています。

平成元年3月17日、埼玉県指定記念物(史跡)に指定されました。

青山神社本殿



甲山古墳にある青山神社の本殿建築です。屋根は同類型の社と比べて大きく、精緻な破風を形作っています。また、各所に華麗な彫刻が施されています。この彫刻は、その技法などから「歓喜院聖天堂」の建立に関わった彫師による製作と考えられています。彫刻部の裏側の記載から、寶暦二年(1752)の創立と推定されます。神社では7月14,15日に天王様を開催。熊谷市指定有形文化財(建造物)。

根岸家長屋門



江戸時代の根岸家は当地域の名主を務める豪農であり、その面影を残す長屋門の規模は、幅13間、奥行き3間、屋根棟高10メートルを誇ります。正面左側は剣術道場の「振武所」として使われ、右側は当時の番頭たちの帳場に使われた部屋が設けられています。建設された時期は天保年間の頃と伝えられており、敷地の広さは1,600坪にも及びました。

なお、平成22年度に屋根・柱・壁などの修復工事を実施し、建立当初の面影を取り戻しました。熊谷市指定有形文化財(建造物)。

平成25年3月

甲山古墳を守る会・熊谷市教育委員会

二の鳥居



これが甲山古墳/二段築成の円墳/正面の青山神社社殿は中段のテラスに建てられている

[video](#)



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これが墳丘の中段のテラスに建つ冑山神社社殿

[video](#)



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/右手に説明板が立っている



6世紀前半築造の円墳/二段築成/近くには、とうかん山古墳(6世紀中頃築造の前方後円墳)が所在し、その関連性が議論されている

埼玉県指定文化財

史跡

甲山古墳

指定 平成元年三月十七日
所在 大宇冑山字賢木岡西

甲山古墳は、比企丘陵の北東部に位置し、標高約五一メートルの丘陵上に構築された古墳です。古墳の形がちょうどかぶとの様な形からこの名がつけられました。

この古墳は、墳形が中段にテラスをもつ円墳で、規模は南北径が約九〇メートル、高さ約一一・二五メートルあります。円墳としては、さきたま古墳群の丸墓山古墳(径一〇五メートル)について県内第二位の大きさをほこっています。

墳頂には、八幡様の本殿が、また墳丘東側には青山神社がもうけられ、これをつなぐ石段や参道で一部墳丘が変形しているようにみえます。

この古墳の正式な発掘調査はなされていませんが、江戸時代の地誌である『新編武蔵風土記稿』には、「(略)この塚を掘った時に、石椁の中より甲冑や馬上の壘人(埴輪)・玉・鏡・折れた大刀などが出土した。(略)」と記載されており、この遺物の内容や、近年大里村教育委員会が採集した円筒埴輪の破片から、築造時期は古墳時代後期(六世紀頃)と推定されています。この甲山古墳とともに、北へ約一キロメートル先の大宇冑山古墳とも、とうかん山古墳と呼ばれる全長七四メートルの前方後円墳があり、当時この地域にはこれらの巨大な古墳を造れる、大きな勢力が存在していたと考えられています。

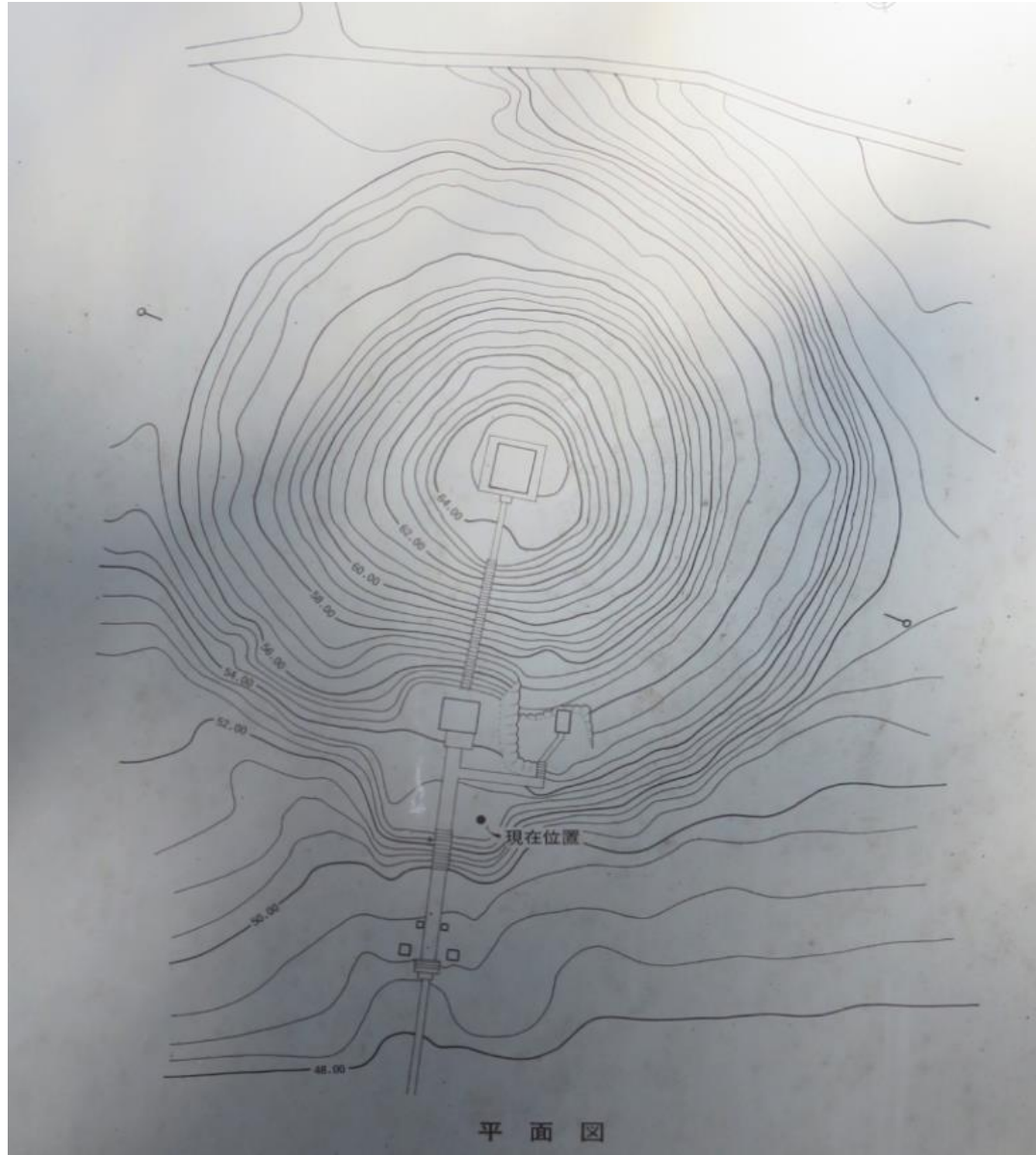


甲山古墳全体図

平成四年三月

埼玉県教育委員会
熊谷市教育委員会

墳丘の平図面



平面図

社殿の左手から墳頂に建つ八幡神社本殿の覆屋を見たところ



ここが青山神社の背後にある八幡神社本殿への石段



これは社殿の右手にある祠

[video](#)



そこから社殿を見たところ



それでは中段のテラスを反時計回りに回ってみよう

 [video](#)



真裏の辺り



そこで墳頂の八幡神社本殿の覆屋を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



更に回り込んだところ



そこで墳頂の八幡神社本殿の覆屋を見たところ



更に回り込むと、冑山神社社殿が見えてきた

 [video](#)



さて、これが墳頂の八幡神社の覆屋/その下に本殿が鎮座している

[video](#)



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



同じく、振り返って冑山神社社殿を見下ろしたところ



これが八幡神社本殿/熊谷市指定文化財

 [video](#)





本殿を時計回りに回ってみよう



本殿の裏側



そこで墳丘の斜面を見下ろしたところ

 [video](#)



その先の様子



さて、これは南西側から墳丘を見たところ/配水場のタンクによって遮られてしまった



これは、少し右手に寄って南側から墳丘を見たところ

 [video](#)



これは、タンクの左側で墳丘を見たところ



墳丘の北西側で、墳丘中段のテラスへの道を見たところ

 [video](#)



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは墳丘北側の周溝跡のような地形を見たところ





これは北側から墳丘を見たところ/小高い地形に築かれているのが見て取れる

[video](#)



アップで見たところ



さて、ここが説明板にあった根岸家長屋門

 [video](#)



市指定文化財 建造物

根岸家長屋門

指定日 昭和54年5月
所有者 根岸友憲

根岸家

根岸家は、江戸時代中期以降、甲山村、箕輪村の名主を務め、約80町歩以上の土地を有する豪農でした。

長屋門 -構造-

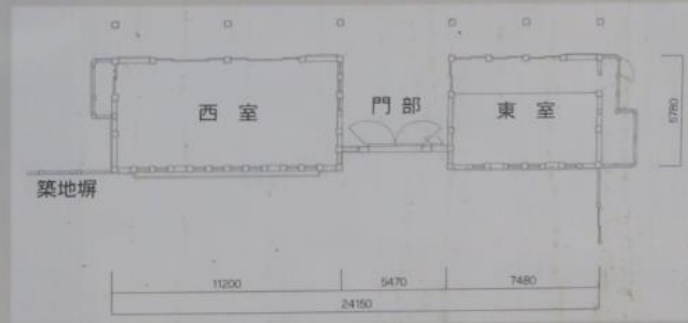
根岸家長屋門の構造は、入母屋造りの瓦葺きで壁材は土壁です。外壁は下部の腰壁部分が板張り、それより上部は漆喰仕上げで、門部分は壁面より後退し、右側に潜り戸を有しています。脇部屋には出格子窓に似た窓が配され、両脇部屋は使用人住居や倉庫、剣術道場として使われました。屋根裏部屋には、与力窓を両脇にそれぞれ二箇所備えています。



甲山村根岸氏構内之図

長屋門 -規模-

長屋門の規模は、桁行24.15m、梁間5.78m、棟高約7.3m、面積約140㎡です。建築年代については、定かではありませんが天保11年(1840)の屋敷絵図にはすでに長屋門が描かれていることから、江戸後期の建築と思われます。



長屋門平面図

こんな塩梅



参考ホームページ

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/jousetu/bunkazai/037bunka.htm>

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2018/04/14/000000>

<https://blog.goo.ne.jp/daidi/e/7404b5ef9d6011b067ad883b94707eb7>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/a3841f2088512528de17c4cb90c7f7de>

<http://homepage.obunko.com/iseki/kohun/kabutoyama.htm>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12313092317.html>

<https://kumagayasibunkazai.blog.ss-blog.jp/2014-03-26>

<http://glassesmaiden.blog81.fc2.com/blog-entry-1112.html>

<http://kagura.wa-syo-ku.com/熊谷市の神社/曹山神社>

